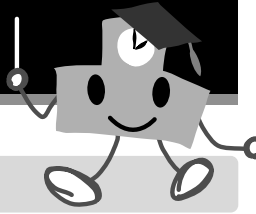


小学校の事例 西区 八軒小学校

小さな取組から全校の活動に。資源物回収で地域との交流を図る。

一部の児童が集めたことがきっかけで全校的に資源物を回収するように。ポスター作成や地域での回収など積極的に活動。修学旅行ではリサイクル工場も見学。リサイクルや環境への意識向上に期待。



はじめの一歩 一部の児童の活動から 児童会の取組に

本校では平成14年に3、4年生の一部の児童が牛乳パックやリングブルを集めたことがきっかけで収集活動が始まり、平成15年には児童会の活動へと発展。同時にペットボトルキャップの収集でワクチンを贈る活動も始まった。「ワクチンを贈るための活動」ということを全校生徒に知らえるように、ポスターを作成して呼びかけ、全校集会などで回収量を発表している。



ペットボトルキャップの回収

内容 地域の施設に車いすをプレゼント

リングブルは学校での回収の他に、郵便局や児童館などにボックスを設置し、いっぱいになったら連絡をもらい取りに行くなどの活動を行っている。その後、リングブルを取りまとめている会社へ送り、車いすに交換。平成16年10月には、児童会が八軒会館の老人クラブへ1回目の寄贈をし、平成20年には2台目の車いすと、同時に中古の車いすをもらい、健康づくりセンターや病院に寄贈した。

牛乳パックのリサイクルでは、洗って干して束ねて回収業者へ渡しており、今年から6年生の修学旅行でリサイクル工場を見学。回収した牛乳パックの行方を実際に見学することにより、子供たちの中でのリサイクルへの意識が高まっている。ここからさらに「リサイクル」や「環境配慮」への興味・関心をもつことが期待されている。



回収コーナー

今後 地域との関わりを深めることをめざす

このほか、PTAや地域に呼びかけ、月一回、古紙、段ボール、ビンなどの資源物回収も行っている。てんぷら油も、児童にもってきてもらうか、学校に持参してもらう形で回収。地域の方にもお知らせが行くので、卒業生の親や地域の方にも協力してもらうことができている。

現段階では具体化していないが、今後は子供たちがお年寄りと一緒にごみ拾いをするなど、地域（町内会）とのつながりをもった行動を目指していきたい。



牛乳パックリサイクル

広げよう つながりよう 環境学習の輪

実施校からメッセージ

学校長が全道の創意工夫展の審査員をしているため、長期の休みのあと、学校には子供たちが自由研究で作製した絵や工作などがたくさん集まってきます。体育館に展示される作品は様々なジャンルのもので、児童たちは興味をもったことをいろいろな方法で形にしているようです。中には環境をテーマにした作品もあり、昨年は当校の1年生が作製した「風力発電機」が札幌市の賞をとりました。